

皆さまと  
病院を結ぶ  
情報誌

# すまいるみと

## 新しく年を迎えて



総合病院水戸協同病院  
院長 川崎 恒雄

「謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年もつがなく新年を迎えられたことを職員一同と共に喜び申し上げます。」

平成10年3月に、病院で行われている医療の現場やその内容を知っていただく広報活動の一つとして「すまいるみと」を創刊して、今年で20号になりました。私が平成13年10月に当院へ院長として就任し、広報委員会の皆さんの努力で年4回発刊するという目標も順調になり、昨年10月からは薬局前のテレビによる広報活動も始まりましたことは、院長として感謝と共に嬉しく思っております。今の医療機関はサービス産業の一つであり、患者さんも6項目にわたる権利意識が重要視されるようになってまいりました。その中でも人間としての尊厳の共有が基本と思っております。水戸協



同病院に来て良かったという評価が得られるように一層の努力をしたいと思っております。一方、平成12年11月に医師法改正を含む、医療法等が一部改正する法律が成立し、平成15年4月の第4次医療報酬の改革のスタートと少子高齢化による医療費の高騰のため老人医療費の抑制策が導入され、ジワジワとその「しわよせ」が来つつあります。さらに今年もマイナスの診療報酬改定を厚労省がもくろんでいるようです。患者さんからすれば、病院に来て払う医療費が高くなったという実感が強いかも知れませんが、世界に類を見ない国民のためのすばらしい国民皆保険制度が昭和36年に導入され、日本国中どこでも、何時でも極めて安い料金で医療を受けることができるようになってきています。この際ですから保険財政の維持が困難になる恐れがあるのは誰のせいもありません。国民総生産費(対GDP比)を比較するならば医療費に対する総費用は世界18位と世界で最高の寿命と、新生児死亡率が最も低い健康大国の割には全く恥ずかしい限りと言わざるを得ません。日本国民は自分の収めた税金に對してもっと監視すべきなのではないでしょうか。私達医療機関の80%以上が医療収入以上のコスト増加が著明で、良い医療と質の高い医療を提供すればする程四苦八苦の台所事情であるのも知っていただきたいと思います。

医療に於いて単に財政的な観点からのみの数字合わせだけで医療制度を構築しようとする行政のやり方に対して、良質な医療を提供することに努力している我々医療機関にとって、到底容認できるものではないと思っております。今後さらに厳しくなる



医療情勢のもとでは自然淘汰による病院の消滅を待つばかりです。何の不安もなく純粹に良い医療を提供し、社会に貢献できるような病院を目指し、さらに気を引き締め、頑張る必要があるようですが、これで良いのでしょうか。

医療制度がいかに変わろうとも、医の原点、医の目指す所は変わりありません。即ち、患者さんとその家族、さらには地域住民が満足する適切で良質の医療を提供することです。

本年もそれぞれの持ち場で、前向きな姿勢で頑張つて地域住民の方々に親しまれ、心の通つた温かみのある病院づくりを行う基本姿勢の一層の努力が必要です。正しく診断し適切な治療さえすれば良いという時代ではありません。これらは当然であつて、来院した患者さんに安心して満足してもらうための色々な工夫が必要です。職員一人一人が自ら経営に参加しているという認識が大切です。持ち場で無駄があるかなにかどうか見直して下さい。

多くの困難に直面している時こそ全員が一致団結して当たる気構えが大切です。患者さんの厚い信頼を得ている我々の病院



第5回市民セミナーが11月15日、茨城県JA会館に於いて行われました。今回は当院内科部長 松本尚志先生が「肝臓を守るために 肝疾患の治療と予防」と題し、肝臓疾患について解りやすく講演し、水戸市のみならず近隣の市町村から参加された方々からも好評を得ました。

(後術アンケート参照)をさらに質の高いものにするために皆さんの熱意を結集して下さい。誰かがやるだろうといった「親方日の丸の安易な考え」では駄目です。

企業の目的は利益を出すこと。医療機関のそれは、地域住民の幸せを願って健康・福祉・保健のため、非採算部門にも対応することが必要と思っております。専門性にかこつけて「患者さんから逃げるな」と言いたいと思います。プライマリーケアの充実こそ地域基幹病院の大切な医療で、これを支えるため一致団結して医の原点に帰ろうではありませんか。今の医療はマスコミのセンセーショナルな報道のため委縮しかかっている気がしてなりません。我々医療人も反省、改革する所はどんどん行う姿勢が大切ですが患者様も意識を変えて下さい。

「一生燃焼、一生感動、一生不悟」です。終わりに、地域の人々ならびに職員の方々のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

2004年1月吉日

これからの外来看護



副看護部長  
秋山 はる江

日本の保健・医療・福祉を巡る環境は、ますます大きく変化を遂げようとしています。現在進行している少子高齢化に伴う国民医療費の高騰によって、日本が世界に誇る国民皆保健という医療保険制度の存続を危ぶまれています。

2000年からはじまった介護保険制度の導入は、保健・医療・福祉の統合を今後ますます推し進める起爆剤となっています。

このように私たちは、これまでに経験のない変化のまっただ中にいます。さらに今後は医療の効率化や医療費削減の動きが進み、入院日数が短くなり、比較的重度の患者様でも自宅で療養するようになると予想されます。これからの看護は、病状の安定したお年寄りを対象とすることが多く、より医療色の濃い訪問看護が必要とされています。

したがって、私たち一人一人が知恵を寄せ合って、時には大胆な変革を、日常的には地道な改善をくりかえしていくことが必要となるのではないのでしょうか。

そこで、これまでの外来診療の現場では病院差があるとはいえ、看護師の仕事は、医師の診療介助や患者様の呼び出しカルテ整理、注射や点滴の準備、後始末などの業務がほとんどでありました。病棟の看護業務に比べ、外来看護業務は基準化されていない現状にあります。最近では外来看護の重要性が、多くの施設で見直されています。少しでも患者様の指導や個別的な相談に乗る時間を確保し、患者様のニーズを把握することにより、自分たちの業務を見直し、業務改善を図ることが重要と考えます。このことにより、さらに質の高い看護サービスが提供でき、患者様満足が得られるのではないかと考えます。

外来患者様 アンケートの結果について

平成15年10月に実施しました患者様へのアンケートの結果を発表します。(今回は外来のみ発表) 産婦人科や脳神経外科の常勤医がないことなど、きびしい環境の中で、2年前のアンケートに比べ、接遇などについて、より良い評価をいただき、身の引き締まる思いです。

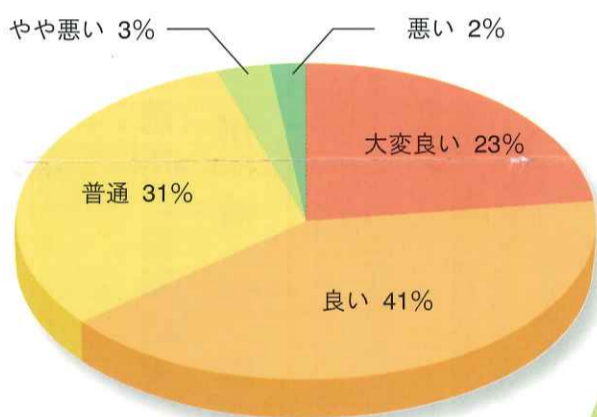
様々な、貴重なご意見も頂戴しましたので、今後、さらに患者様に信頼され発展するように、職員一同、精一杯努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

平成16年1月吉日

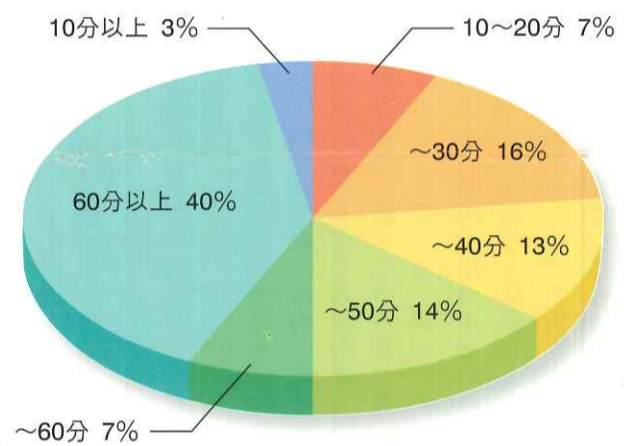
水戸協同病院 サービス委員会



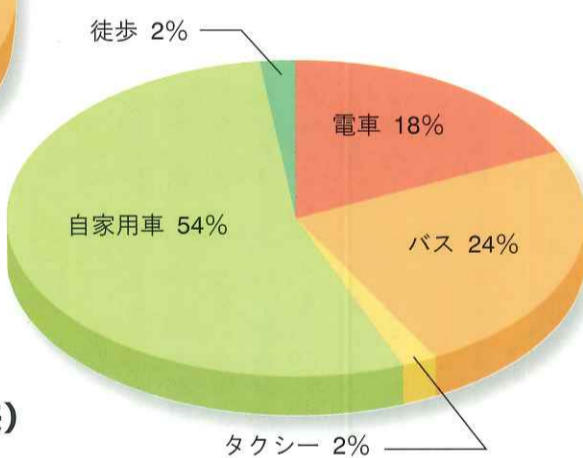
職員の対応について (外来)



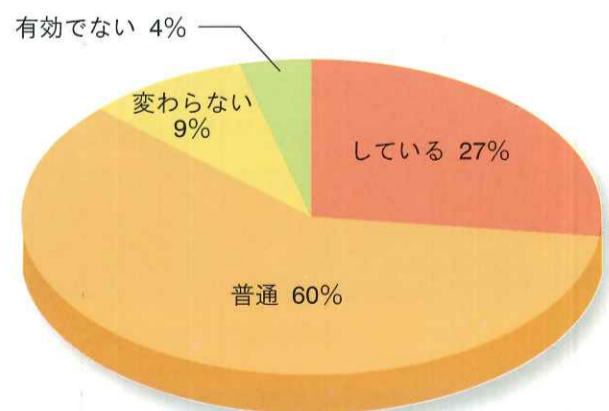
診察に入るまでの時間 (外来)



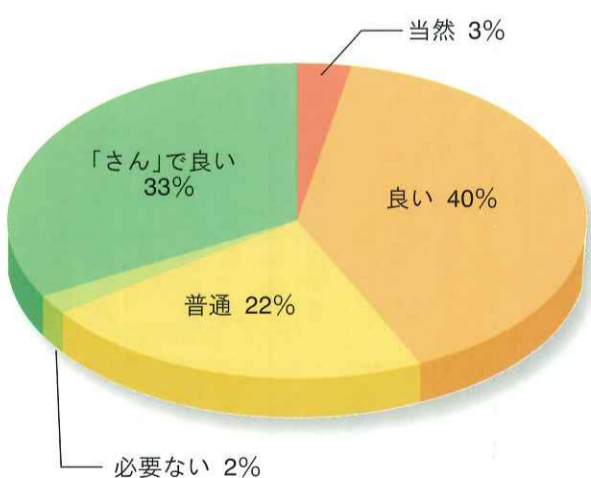
交通手段 (外来)



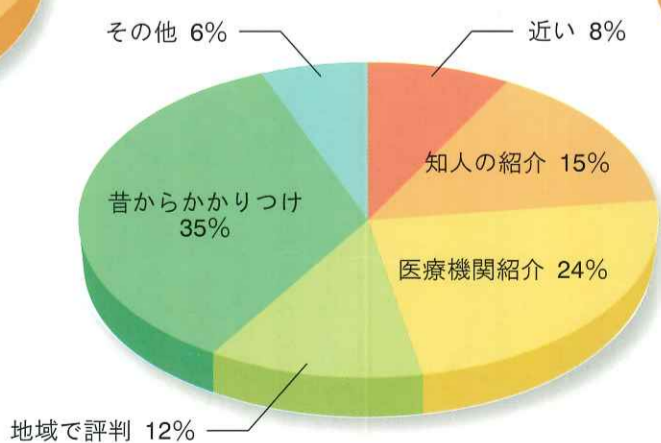
病診連携が十分に連携していると思いますか (外来)



患者様という呼び方について (外来)



利用きっかけ (外来)



※ まだ待ち時間が長い事 (60分以上40%) や病診連携が十分に機能していない事など反省点も多く、今後一層の改善努力を行います。(院長)

井上 望



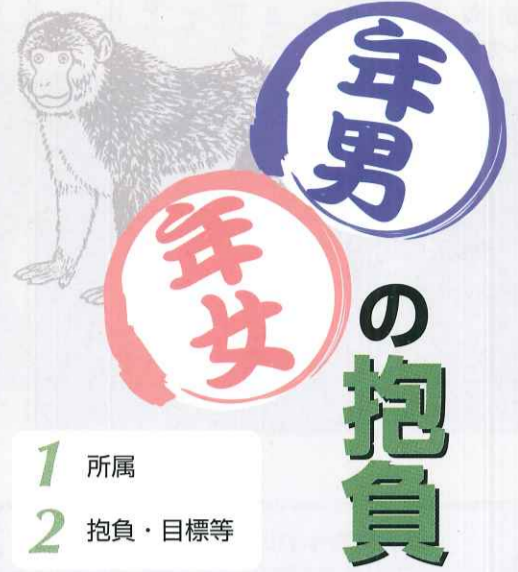
- 1 4西病棟
- 2 新しいことに挑戦していく。



三代 万理子



- 1 健康管理センター
- 2 昨年末に人間ドックを受診し、受ける側の立場も経験しました。受診者として感じたこと、自分ではこうしてほしいなあと思ったことなどをこれからの仕事に生かし、安心してご利用いただけるよう努力して行きたいと思います。そして、自分自身の健康管理もしっかり行っていききたいと思います。



- 1 所属
- 2 抱負・目標等

加藤 理紗



- 1 4東病棟
- 2 ①仕事ができる人間になる。  
②周りの人に迷惑をかけない。  
等を目標にがんばっていききたいと思います。

先崎 正美



- 1 事務部・医事課
- 2 今年4回目の年男の私です。ここ数年仕事が忙しく毎日が過ぎていた。今年は日々忙しいなかにも心にゆとりをもつこと。そして患者様が満足できるような病院作りに努めたい。

平塚 美樹



- 1 2東病棟
- 2 新人として2東病棟に配属され、早2年目がたちました。仕事にも慣れ、毎日楽しく仕事ができるのも、よき先輩NSのおかげだと思います。今年も初心を忘れず、先輩の指導のもと頑張りたいと思います。

高田 希実



- 1 4西病棟
- 2 本年は何事に対しても全力で取り組める様、頑張っていきたいと思っています。又、元気で楽しい一年にしたいです。

皆川 まゆみ



- 1 3西病棟
- 2 仕事の面では「平常心」をモットーに医療事故、医療ミスを起こさぬよう、看護師としての職務を果すこと。プライベート面では、とにかく「健康第一」で。よく食べて、よく働き、よく眠ること。そして、今年一年頑張ります。

照沼 雄介



- 1 臨床工学部
- 2 昨年があっという間に一年が過ぎてしまい、仕事面で実のある時間を過ごせなかったかと思っています。ただ新しい出会いもたくさんありそういう面では、よかったですかと思っています。本年度は仕事面で昨年度を上回るように充実した年にしたいと思います。

# 2003 年末年始恒例行事 2004



病院忘年会にて



クリスマス



クリスマスコンサート

# 病棟案内

## 4西(整形外科)

病棟部長 川又 光子

私たち整形外科病棟は、定床48ベッドで医師3名、看護職員22名のメンバーで運営している病棟です。整形外科のモットーは、「救急から在宅まで」のもとに日々治療・看護にあたっております。1日24時間、1年365日救急患者さんを受け入れられる体制を引いてすべての整形外科領域の疾患を受け入れておりますが中でもスポーツ外来を開設して診断・トレーニングメニューの処方や骨の短いところを伸ばしたり脊椎の矯正の手術(アライザロフ)、人工関節の再置換(入れ替え手術)などを得意としているのが特徴です。その他救急の外傷、骨折に対しては、迅速に対応して早期の回復に努めております。

看護面においては、「スタッフの教育」を重点に考え現任教育を充実させ、看護に従事しながら患者様との人間関係を通して「ともに学ぶ」ことで個々の生涯教育へと繋がっていかれたらと考えております。病棟の看護方式は、プライマリ・ナーシング(一人の患者さんに一人の看護師)を取り入れ入院から退院まで責任を持ってケアに当たり患者様やそのご家族からの要望を取り入れた看護計画のもとで看護を展開しております。また、すべての看護は、根拠に基づいて提供できるように基本的な知識の習得にも力を入れています。退院後のことについては、MSW(メディカル・ソーシャル・ワーカー)と相談し安心して退院できるようにマネージメントし必要に応じて訪問看護も行っております。

医療の現場は、益々厳しい状況に置かれておりますが安全で適切・確実な治療・看護をチームで今後も提供できるように努めてまいります。たいと思っております。何かお困りな事がありましたら是非ご相談ください。今年もなお一年もなお整形外科病棟を宜しくお願いいたします。



## 職員旅行に参加して

浅川 洋子

今回の職員旅行は北海道、私は旅行委員だったので少し緊張して参加しましたが、無事三日間、行程通り旅行することが出来ました。

北海道に着いてすぐに丹頂鶴を見る事ができ、見たせばあまりの広さに北海道にまたんだなーと実感することができました。初日の旅館では、ゆつたりと心身ともに癒され、また夜の宴会では黒一点参加の院長をはじめ十三名の参加者と飲んで食べて歌って楽しいひと時を過ごしました。二日はバスの中から可愛いキタキャンパスをみる事ができました。三日間の摩周湖は快晴

で360度のパノラマに見とれてしまうほどでした。最後に網走刑務所を見学しました。現在の刑務所は建て直されて、罪も軽い人が収容されているとのことでした。昔の網走刑務所が服役中の囚人により移築され一般開放されており、案内してくれた人の話では罪人は真冬でも着物一枚、履物一つで北海道の道路工事の仕事をしたそうです。道路工事中に亡くなった罪人はその場に捨てられたそうで、後に不憫に思った人々が掘り起こしたら二百人以上の遺体が発見され供養されたとのことでした。同じ人間のにどうしてなのか、またこの網走刑務所を見学できるようにしたのは、なにを訴えたのかを考えさせられました。



(360°パノラマの摩周湖で)

機会があったらまた是非参加したいと思えます。勤務が忙しい中、参加させて頂き感謝します。

## <院内探索>



(2階外来絵画) "アトリエにて"

市内ご開業の高木俊男先生より寄贈いただきました。



(病棟エレベータホール前) "春の喜び"

## 学会発表他(10月)

- \*第156回 日本呼吸器学会関東地方会
  - 演題: シェーグレン症候群に合併したpreLIPと考えられた1例
  - 発表者: 呼吸器内科 菊池 教大
  - 発表日: 9月27日
- \*第52回 日本農村医学会学術総会
  - 演題: 大腸疾患に対する腹腔鏡補助下大腸切除術の検討
  - 発表者: 外科 新妻 義文
  - 発表日: 10月9日
  - 演題: 前立腺癌患者の骨転移に伴う疼痛の緩和～指圧・マッサージを取り入れてみて～
  - 発表者: 看護部(4西病棟) 秋山 咲子
  - 発表日: 10月10日
- \*第2回 北関東呼吸器疾患カンファレンス
  - 演題: 胸腔鏡下肺生検を施行し得た上葉優位型肺線維症例の検討
  - 発表者: 呼吸器科 菊池 教大
  - 発表日: 10月10日
- \*第5回 茨城県緩和医療研究会
  - 演題: 放射線治療中の舌癌患者の食事
  - 発表者: 栄養部 小川 敦子
  - 発表日: 10月11日
  - 演題: 全告知から告知中止となった1症例～看護師の視点から～
  - 発表者: 看護部(5西病棟) 白土 章子
  - 発表日: 10月11日
- \*第3回 茨城県北形成外科研究会
  - 演題: 糖尿病に合併した背部巨大皮下腫瘍の症例
  - 発表者: 形成外科 伊藤 正洋
  - 発表日: 10月17日
- \*第66回 日本消化器内視鏡学会総会
  - 演題: Does shortened duration of balloon dilatation reduce the incidence of pancreatitis and elevation of serumamylase after endoscopic papillary balloon dilatation for extracting bile duct stones? Preliminary results of a prospective randomized trial.
  - 発表者: 消化器内科 荒木 眞裕
  - 発表日: 10月18日
- \*第3回 水郡ブロック保育協議会保育士研修会
  - 演題: ヒトとその子育ての自然なあり方を支援する
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 10月18日
- \*第53回 日本皮膚科科学会 茨城地方会
  - 演題: ヘルペス性菌肉口内炎の中年女性例
  - 発表者: 皮膚科 矢野 道子
  - 発表日: 10月19日
- \*みと市民セミナー
  - 演題: 乳がんの検診・診断・外科療法・薬剤療法について
  - 発表者: 外科 前田 正光
  - 発表日: 10月19日
- \*第170回 茨城県内科集談会
  - 演題: 呼吸不全を呈した粟粒結核の1例
  - 発表者: 呼吸器内科 菊池 教大
  - 発表日: 10月25日
- \*第204回 茨城外科学会
  - 演題: 肛門管癌の治療成績
  - 発表者: 外科 津久井 一
  - 発表日: 10月26日
  - 演題: 肺MALTリンパ腫の1切除例
  - 発表者: 外科 真壁 健一
  - 発表日: 10月26日
- \*第96回 茨城県整形外科集談会
  - 演題: 大腿骨頸部骨折に合併した腸関節膿瘍の2例
  - 発表者: 整形外科 小宮山 千晴
  - 発表日: 10月26日
- \*第52回 耳鼻次城地方部会
  - 演題: 耳鼻科用電子内視鏡・ファイリングシステムの使用経験
  - 発表者: 耳鼻科 秋月 浩光
  - 発表日: 10月26日
  - 演題: 輪状咽頭筋切断術、喉頭挙上術が奉効した舌癌術後の嚥下障害の1例
  - 発表者: 耳鼻科 廣瀬 由紀
  - 発表日: 10月26日

## 学会発表他(11月)

- \*平成15年度 日本体育協会公認アスレティックトレーナー適応コース
  - 演題: 現場における安全確保
  - 発表者: 整形外科 平野 篤
  - 発表日: 11月1日
- \*第21回 茨城県厚生連薬剤師研修会
  - 演題: 当院における処方箋監査の実態
  - 発表者: 薬剤部 廣木 崇子
  - 発表日: 11月2日
  - 演題: DI業務の標準化及び当院の現状報告
  - 発表者: 薬剤部 棚井 尚登
  - 発表日: 11月2日
- \*第35回 日本小児感染症学会総会
  - 演題: 小児の下気道炎における肺炎クラミジアの動向
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 11月7日
  - 演題: ①インターネットを利用した茨城感染症流行情報ネットワークの活動について ②小児のインフルエンザに対するザナミビルのネブライザー吸入療法 第2法
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 11月8日
- \*菅谷保育所家庭教育学級
  - 演題: ヒトの子育ての自然なあり方を考える～ヒトの"いきるちから"を信じて～
  - 発表者: 小児科 田中 敏博

- 発表日: 11月14日
- \*第37回 日本口腔科学会関東地方部会
  - 演題: 鼻口蓋管囊胞の2例
  - 発表者: 歯科口腔外科 鈴木 克年
  - 発表日: 11月15日
- \*第14回 日本臨床スポーツ医学会学術集会
  - 演題: ソフトテニス選手にみられた機骨疲労骨折の1例
  - 発表者: 整形外科 平野 篤
  - 発表日: 11月15日
  - 演題: 総合格闘技選手の外傷、障害の傾向について
  - 発表者: リハビリテーション科 小田 桂吾
  - 発表日: 11月15日
- \*第20回 全国放射線技師総合学術大会
  - 演題: 茨城県における医療被曝低減運動の実際と成果第12報
  - 発表者: 放射線部 長谷川 光昭
  - 発表日: 11月20日
- \*第1回 茨城大腸肛門疾患研究会
  - 演題: 診断に苦慮した大腸炎症性疾患
  - 発表者: 外科 川崎 恒雄
  - 発表日: 11月21日
- \*第3回 茨城県消化器外科症例勉強会
  - 演題: 急性閉塞性化膿性胆管炎の1例～術式の選択～
  - 発表者: 外科 高橋 良延
  - 発表日: 11月21日
- \*第4回 医療マネジメント学会茨城県地方学術集会
  - 演題: 外来大腸内視鏡検査患者用クリニカルパス導入と見直しの効果
  - 発表者: 看護部(内科外来) 根本 美奈子
  - 発表日: 11月22日
- \*第48回 日本未熟児新生児学会
  - 演題: ザナミビルのネブライザー吸入療法を施行した新生児インフルエンザ感染症の1例
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 11月28日
- \*第10回 茨城県鏡視下手術研究会
  - 演題: 大腸疾患に対する腹腔鏡補助下 大腸切除術の検討
  - 発表者: 外科 新妻 義文
  - 発表日: 11月29日
- \*第30回 茨城乳癌疾患研究会
  - 演題: 乳房骨転移症例に対するビスフォネート製剤の使用経験
  - 発表者: 外科 前田 正光
  - 発表日: 11月29日

## 論文発表(11月)

- \*掲載誌: 臨床スポーツ医学 「疲労骨折の診断と治療」20巻
  - 論文: ① Osgood-Schlatter 病 ② Sinding-Larsen-Johansson 病
  - 著者: 整形外科 平野 篤
  - 分類: 総説
- \*掲載誌: THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL
  - 論文: 膿毒性肉芽腫の2例
  - 著者: 歯科口腔外科 鈴木 克年
  - 分類: 症例報告

## 学会発表他(12月)

- \*第23回 関東甲信越地区看護研究学会
  - 演題: 意識障害を伴う片麻痺患者のベッド転落防止対策～ベッド欄固定カバー(落ちない君)の有効性の検討～
  - 発表者: 看護部(4西病棟) 山縣 七重
  - 発表日: 11月7日
- \*水戸市母子保健従事者研修会
  - 演題: 育児指導についての医療と保健の連携
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 12月3日
- \*つくばブロック保育協議会 合同講演会
  - 演題: ヒトとその子育ての自然なあり方を支援する
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 12月6日
- \*難病医療講演会
  - 演題: 消化器難病における食事管理
  - 発表者: 消化器内科 松本 尚志
  - 発表日: 12月6日
- \*萬徳寺保育園「すくすくのびっこフォーラム」
  - 演題: ヒトとその子育ての自然なあり方を考える～ヒトの"いきるちから"を信じて～
  - 発表者: 小児科 田中 敏博
  - 発表日: 12月10日

## 論文発表(12月)

- \*掲載誌: 茨城県農村医学会雑誌 第16巻
  - 論文: 経過観察された胃癌3症例からの学ぶべき盲点について
  - 著者: 外科 川崎 恒雄
  - 分類: 原著
  - 論文: 胃腸吻合術の3例～梶谷式吻合術に学ぶ～
  - 著者: 外科 津久井 一
  - 分類: 原著
  - 論文: 虚血性大腸炎の2例
  - 著者: 外科 玉田 一敬
  - 分類: 症例報告
  - 論文: 小児科医におけるサイトメガロウイルス初感染の1例
  - 著者: 小児科 田中 敏博
  - 分類: 症例報告
- \*掲載誌: 看護展望 2月号
  - 論文: スタッフによる組織横断的な患者安全管理～分析方法を取り入れたヒヤリハット対策～
  - 著者: 看護部(4西病棟) 菊池 美恵子
  - 分類: 本